

夏だ！多摩川

7月20日、多摩川自然情報館のイベント「多摩川のいきものをさがしてみよう！」に集まった子どもたちが水辺に降りた。

場所は府中用水が流れ込むやや上流。安全確保のためたくさんの大人に囲まれ、岸から手が届きそうな場所でのガサガサ（足先で草陰や石の下をつついて網で捕る）。

「こんなに皆がかき回して、まだ魚がいるの？」と思っただが、次々にドジョウや小魚、スジエビなどがビニール袋に入れられていく。ボランティアで参加していた方も「いいなあ。自分もまた捕りにきてみよう！」

※子どもは大人と一緒にね捕った生き物はビニール袋やプ

ス事て失くしてはならない。

ラスチックの虫かごへ。川の流れの速いところにいる魚（アユなど）は水槽では飼えないため、姿を観察したらそと川へ返してやる。アユなどはデリケートなのであまり勢いよく放り出すと気絶してしまうという。

二ヶ領上河原堰では治水工事が終わり、ハーフコーン型の魚道も整備され、アユの遡上も上々のようだが、子供達が遊べる岸辺が無くなってしまったようだ。治水のための護岸工事が、生き物や植物などに配慮した工法になっていくのかどうか大きな課題となっている。



アユ・モツゴ・ドジョウ・シマドジョウ・スジエビ
ヌカエビ・スミウキゴリ・ニゴイ・マルタ・ナマズ
タモロコ・トンボのヤゴなど
オイカワ



川横にあるガマの生い茂る水たまり。15 年以上前に人工的に作られたワンドだったが、土砂が積もって水の出入りが無い水たまりに。



「これ何ですか？」捕れた生き物を講師に見せて名前や生態を教えてもらう子どもたち。



講師の君塚先生は子どもたちに見せるアユを確認するため投網を打った。



ガサガサのいでたち。ライフジャケット・スニーカー（サンダルは危険）・ビニール袋・網。



こんな風に小魚を入れる前に、ビニール袋をよく振って「曝気（ばっき、酸素を混ぜること）」する。

写真提供：宮治隆博



スミウキゴリ
わかります。
（宮治隆博）

また、近年天然アユの遡上が毎年のように増加しているのは、堰の魚道の改良によるものと思われ、いかに、人工構造物による生態系への影響が大きいかという事が、これらの例でも

深く関係があるようです。

子供の頃、多摩川で魚採りをしていた時には、同じハゼ科のヨシノボリは良く捕まえていましたが、本種の記憶がありません。どうも、大田区の「調布取水堰」の開門と深く関係があるようです。

またその3種中、最も下流域、いわゆる「汽水域（海水と淡水が混じっている場所）」に生息するということですが、多摩川では、結構上流でも確認できます。野川や残堀川等の支流でも確認でき、近年、増えているように思えます。

スミウキゴリはスズキ目ハゼ科の魚です。「ウキゴリ」には3種あり、尾びれの付け根付近にある黒丸は、ウキゴリ3種の中では最も目立ちます。

スミウキゴリ

調布の
生き物
魚編

花の履歴書 28

戸部英貞 (絵・文)

マメアサガオ 豆朝顔 ヒルガオ科



Ipomoea lacunosa L.

畜産業を営む知人から輸入牧草を使っているの、畜舎の周りにいろいろなアサガオが生えているという情報が届き、帰化アサガオに興味を持った高校生の頃を思い出した。

輸入穀類に混入した様々な種子を調べる課題の中、輸入大豆に混入したアサガオの種子が川に流され定着していることを耳にし、ダイズを大量に使うのは味噌や醤油を作る醸造所か豆腐屋さんだが、近くに醸造所はなく、豆腐屋さんをターゲットに、豆腐屋の近くを流れる小川を探索して歩いてみたが成果はほとんど見られなかった。

数年前、多摩川支流の一つ、野川で観察会が行われた折、花の咲いていないアサガオらしき植物に出会い、葉が心臟形なのでマルバクワソウではないかと思い、スケッチの材料に茎の一部を切り取り挿し木しておいた。

夏になって、ほかのアサガオた

ちが次々と花を咲かせているのに、挿し木をしたアサガオは一向に花を咲かせる気配がなく、やむなく野川を訪ねると、すでに近くのフェンスにはマルバクワソウの花が咲いていた。

採集したアサガオの花は咲いていないが、マルバクワソウでないことだけは確認できたが、採集品の種類を確定するまでには至らなかった。

種類を確定できないまま放置しておいたアサガオは、8月になって蕾が付き、小さい白い花を咲かせ、マメアサガオであることも判った。野川のアサガオはどうなったか、訪れると遠目にも判るほどの大きな群落を作って白い花を咲かせていた。

この年は栽培種や畜産業を営む知人から得た各種の帰化アサガオなどを加え、十数種の野生種のアサガオが咲き、小さなアサガオ展を催すことができた。

漁具を使った魚取り

◆榎本勉さんのお話

昭和13年上ヶ給(国領町あたり)生まれ

ウナギの穴竿

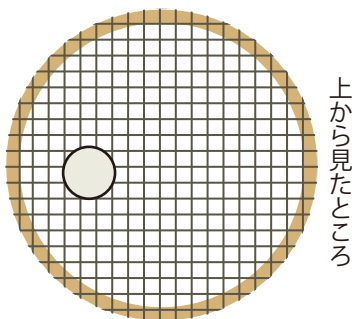
前回お話したウナギドウの他にこんなやり方もした。1mくらいの竹の先に針を付け、餌のエビガニやドジョウを付けて橋の下や穴とかウナギのいるような穴に差し込むんだ。ウナギがいればすぐにかかる。とれたウナギは自宅の池に3日くらい入れておき、くさみが取れたら食べる。親せきの爺さんは穴竿の名手だった。

多摩川では夕方4時過ぎ、中野ナンバーのオートバイが来て、バッテリーと電極棒を2本持ってウナギ穴竿に行くのを見た。これはいけないなあ。

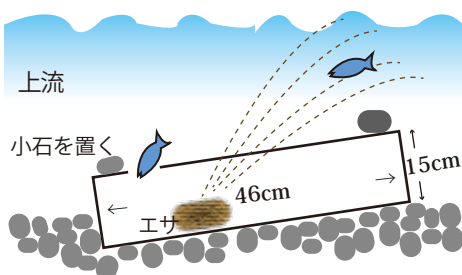
桶箆(オケドウ)

古い歴史のある漁具で、樽や桶を用いて作られていた。桶の上に丈夫な糸でできた網(または粗い布)をかぶせ、穴をあける。後に桶はブリキ製の用具が販売されるようになった。オヤジの道具(オケドウ)を借りて流れのゆるい50cmくらいの深さの川底を5〜10cm掘り、桶箆を置いたらその上に流れないように小石を5個くらい載せる。サナギやヌカを炒って泥を混ぜて練った物をエサとして中に置くと下流に流れ出し、匂いを嗅いで来たウグイが真っ黒になるほど入っていた。ウグイの産卵の5〜6月頃仕掛けたと思う。

※場所によっては、ぬか桶漁とも言われる



上から見たところ



竹やプラスチックでできた釜(うけ)



水が流れ込むようになっている魚入れの箱

7月23日 多摩川流域協議会の主催で開かれた「夏休み多摩川教室」。

京王線鉄橋近くの河原に川に関する様々なブースが出展されましたが、漁協のブースでは昭和の頃使っていた漁具や捕った魚を一時的に入れておく木箱などが展示されていました。

おまけに多摩川で捕れたアユをその場でテンプラにして試食も！ おいしい！

田んぼの学校

7月20日 田んぼの生き物観察



今年も無事田植えが終わり、同時に田んぼで生きる生き物たちが活発に活動を始めます。

アマガエルが卵を産み、アメンボもたくさんの子どもたちが水面を遊び回り、水の中では、ミジンコが泳ぎ、ハイイロゲンゴロウも水中をスイスイ泳いでいますが、その幼虫は、おしりを水面に持ち上げて、息をしています。



7月の田んぼのようす

毎年同じような光景を目にしています。が、実は全く同じというわけではありません。今年は、ホウネンエビの発生が少なく、サカマキガイがいつもよりたくさんいます。アマガエルの産卵期間もいつもより長く、3cmと1cmのオタマジャクシがいます。田んぼの水温は生き物に与える影響の大きなものの一つと云っていいでしょう。湧き水の約15度という水温は、稲にとって成長を妨げるものなので、田んぼにためた水を太陽で温めるようにしています。いかに田んぼの水温を上げるか毎年頭を悩ませていて、その加減が生き物の生態に密接に関係しているようです。

(田んぼの学校 校長 尾辻)



田んぼの学校で生き物観察

ちょうふの崖線樹林を守る

入間・樹林の会

6月15日(日) 晴れ 参加者10人

久しぶりの晴れ。三角地の下草刈りとツバキの森の竹伐採と片づけの二手にわかれて作業した。セブンイレブン記念財団の3か年の助成事業が終了し、完成した植物図鑑を配布した。活動についてヒアリングがあり、一緒に下草刈りを行った。なごやかで自由な雰囲気の中で活動しているのがよいとの感想だった。他の活動をしている人から意見もきけるのでよかったと思う。スズメ蜂がいたので注意が必要。



伐採された青竹



ヒアリングに来られた中倉さんも作業に

7月19日(日) 晴れ 参加者9人+職員2人
雨あがりの暑い日の作業だった。方形枠調査と三角地の下草刈り作業を手つだつてもらった。雑木林ボランティア講座と並行しての作業と活動で、ボランティア講座受講生にも三角地の下草刈り作業をしてもらった。人手があると作業もはかどったが、全員作業に集中したため会の状況など話す時間が無かった。民家付近の笹は何年もの刈っていないので太くて硬かった。緑と公園課長と係長も活動に参加し、樹林地の現状や活動がよくわかり双方の理解が深まり良かったとの感想だった。(安部)



ボランティア講座生とともに



高校生も参加、方形枠調査

カニ山の会

6月14日(土) 晴れ 参加者5名

雑木林ボランティア講座生と植樹エリア草刈を協同で行った。講座生が7名いたため、草刈りはかどった。講座スタッフ(講師含め)4人がカニ山の会メンバーだが、その他3人も午後まで残って竹切実習のお手伝いをした。



皆で草刈り



竹切り実習お手伝い

7月12日(土) 晴れ 参加者7名
暑さの中こまめに水飲み休憩をとりながら前月に引き続き植栽地の草刈。メンバー各人の思いで「チョウその他の昆虫のため・美しい花が咲く在来種」などは刈り残したが、周りはしっかりと刈りつけて意図がわかるような形にした。

「緑と公園課」職員2人が、協働の樹林地の保全政策に生かすため活動状況の視察に訪れ、いっしょに作業を行った。市に購入してもらった香取線香(オレンジ色の防虫器)は質が良く、使いやすかった。振り返りで「東樹林の手入れが必要・植物の希少種にはマージングしたい」の意見の他、職員の方に「水やりのため、水道栓を使えるようにして欲しい」と要望を出した。(NK)



若葉の森3・1会

6月1日(日) 晴れ 参加者11名

気温30度を超える暑い日。主に六別坂と緑地内の落葉かきを実施。小学生と新しい方に加え、市の職員2名がスポット参加。第1〜4緑地を回り、保全方法や住民の関わり方について意見交換を行いました。



杭を作る



参加者(撮影者含め他に4人)

7月6日(日) 晴れ時々曇り 参加者8名
「七夕飾りにどうぞ」と坂道沿いに置いた笹を通りがかりの方に持ち帰っていたきました。

六別坂と第1緑地内の清掃と落葉かき、第1・第2緑地間の階段の滑り対策、階段最上部の土留め杭追加強化修理を実施。ツクサ科のヤブミョウガが白い花を咲かせ、大きなキノコもたくさん自生。(N&O&K)



キノコ



落ち葉かき



ヤブミョウガ



七夕の笹を提供

ちょうふ あちこち



前号で「日本みつばちがいます」の表示を紹介したら「七中にもいますよ。見てくださーい」のお知らせを戴きました。

いたいた。こちらは小ぶりのハチが柵の辺りです。こちらには、本ミツバチの行動範囲は2kmくらいと言われているので、布多天神横から分蜂した巣かもしれないところ。それにしてもどちらも近くにあまり花は無いようですが、ハチが困らないくらいの緑地は維持したいですね。



我が家のベランダには朝顔や瓢箪もあり、手摺や物干しまでツルを伸ばし絡みつき凄いくちになっていますが、日射しを浴びるゴーヤの葉影は、美しい緑のグラデーション。部屋に流れ込む空気も涼しく感じるゴーヤカーテンは、今や我が家の夏の風物詩になりつつあります。(手塚)

我が家の緑のカーテン

環境フェアで戴いたゴーヤ。6月24日の電も我が家と探すのが日課です。グリーンカーテンとはいって、も、やっぱり花も実もあり、なおかつ食べられるものは、楽しみが倍増しますね。オカワカメも、天ぷらや酢の物の具に加え、いただいています。

カニ山で里山の自然を探検・体験しよう

7月26日 深大寺自然広場



深大寺自然広場で恒例の生き物調べ。主な対象は昆虫だが初めに「その場所のようす(日時・気温・草原)」を記入したり、静かに生き物の声(ヒヨドリ・シジュカラ・メジロ・カラス・アブラゼミの音が聞こえた)に耳をすまします。そして匂いは？ 草や土、排気ガス。講師の石川先生、宮治先生のお二人に虫の好きな場所や網の使い方など聞いた後に、虫捕り開始。シヨウリヨウウバツタや大きなオニヤンマを捕った子もいた。大きな木の幹には誰が仕掛けたのか網に入れたバナナがつるされており、カブトムシが網にツノをひっかけてもがいていた。このままではカラスに食べられるのがおち、ということではずして持ち帰ることに。上手に育てて、幼虫が生まれたらまたこの広場に帰してね。



共催 身近な川を見守る会 調布地域協議会

入間樹林地の植物

「入間・樹林の会」ではセブンイレブン記念財団の助成金を受け、これまでに入間樹林地で観察された植物の図鑑を作成しました。

(監修 根本淳氏) お問合せは 入間・樹林の会



ちょうふの自然 みつけた!

メーリングリストより

- ◆7月12日、カニ山付近で、夕方6時過ぎヒグラシを今年初めて聞きました。暑かった昼間の疲れを癒してくれました。14日にはカニ山付近でアブラゼミが鳴きました。いよいよ夏本番という感じ。(HK)
- ◆23日、朝5〜6時に今年初めてヒグラシの声を聞きました。その日の夕方には庭でもアブラゼミが鳴きました。(NK)
- ◆25日、お隣の庭からミンミンゼミの音が聞こえていました。ヒグラシは先週の日曜日に22森・神代で聞いたのが、今年初めてだったかな?(SN)

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域福祉センターへ。

- 8/17(日) 9:30〜12:00
- 9/21(日) 9:30〜12:00

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

- 8/9(土) 10:00〜12:00
- 9/13(土) 10:00〜12:00

9月は一般参加者と共にドンダリの森で雑木林を楽しむイベントを開催予定です。

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 9/14(日) 9:30〜12:00
- 8月の作業はお休みです。

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 9/7(日) 9:30〜12:00
- 8月の作業はお休みです。

市内樹林地の保全活動は調布市との協働で行っています。

※入間・樹林の会は8月3日9時過ぎから、若葉緑地の会は8月10日、若葉の森3・1会は8月3日に、調布市と「樹林地保全方法調査・検討」に関し、意見交換を行います。

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が発行しています。隔月で1000部発行。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載。ちょうふ市民会議ホームページにバックナンバーを掲載しています。併せてご覧下さい。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org

“自然だより”の置き場所

◆地域福祉センター、たづくり 11F みんなの広場、あくろす 2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館、市役所8F 環境政策課・緑と公園課、神代植物公園植物多様性センター、野菜食堂みさと屋、NPOエコメッセてらのサウルス、ニワコヤ ほか。 ◆自然だよりを置いてくださるお店＆応援カンパ・応援団を募集しています。

※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載しています◆